

平成 30 年 6 月 5 日現在

機関番号：30103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02838

研究課題名(和文) イチョウ巨樹の乳信仰に関する歴史研究

研究課題名(英文) Historical Study about Milk Belief of Ginkgo Giant Tree

研究代表者

児島 恭子 (KOJIMA, KYOKO)

札幌学院大学・人文学部・教授

研究者番号：90709289

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：幹周6m以上のイチョウ巨樹に対する乳信仰について現地調査と文献調査を行い、その実態の確認と、これまで行われていなかった歴史研究を試みた。イチョウ巨樹の幹や枝に形成されるチチにもとづく祈願は9タイプに分類できた。イチョウ巨樹の樹齢については科学的に確認する方法がない。各イチョウについて文献調査によってその初見、立地、植樹の理由、信仰、保存の経緯等を探った。これまで文献上の初見から、日本への中国からの移入は室町時代とされているが、研究協力者の知見との整合性からも、より古い時期に植えられ、数百年後にチチが形成されて乳信仰が始まり、多様なルートで全国に伝播したと推察できた。

研究成果の概要(英文)：A field survey and a historical search were performed about mother's milk belief to a ginkgo giant tree of more than 6 m of the trunk round. And confirmation of its reality and the history study which wasn't performed up to now were tried. The belief builds on "chichi" formed into branches and trunk of ginkgo giant tree, it could be classified into 9 types. There are no ways to check it scientifically about an age of the tree of a ginkgo giant tree. I looked for a first record, reason of the planting, location, the change of the belief and the preservation, etc. by a literature search about each ginkgo. The import from China to Japan of ginkgo was said to be Muromachi era, but it was also planted older time from the consistency with the knowledge of a research collaboration person, and could suppose "chichi" was formed hundreds of years later, and milk belief started, and to have spread Japan at various routes.

研究分野：歴史学

キーワード：イチョウ 巨樹 信仰 乳 歴史 民俗 木霊 女性

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年の日本史研究において、資源利用や文化の面で、樹木に着目した研究が行われている。しかし、日本では杉、檜、松、桜、槻等が木材や文化にとって重要で、公孫樹(銀杏)については取り上げられていない。

(2) 巨樹については、近代から天然記念物という文化財とされて一般に知られており、近年はパワースポットとして関心をもたれる風潮がある。国や地方公共団体による天然記念物や保存木として登録された巨樹(幹周6m以上)はデータとともに公開されているが、その調査や公開には粗密がある。しかし、巨樹はその木が木材として利用されなかった結果であり、その理由はその木に対する信仰にある。民俗学分野では樹木信仰に言及した研究はある。しかし巨木・巨樹についての柳田国男(柳田国男先生著作集第12冊「神樹篇」など)や南方熊楠(南方熊楠全集第2巻「巨樹の翁の話」など)の視野の広い包括的な著作はあり、産育習俗との関連も言及されているがイチョウに関する詳細な研究はない。いっぽう、日本におけるイチョウ巨樹のデータは集成されつつある。

(3) イチョウは中世に中国から人間が持ち込んだ。人間が意図的に植えなければ増えない特性がある。イチョウ専論では生物学の掘輝三『日本の巨木イチョウ』(2003年)同『総覧日本の巨樹イチョウ』(2005)がさまざまな観点からイチョウの総合的な研究を披歴している。しかしこれまでの調査研究には巨木イチョウの所在地(寺社や立地)や民俗信仰についての歴史学的な関心がほとんどない。佐藤正弥(徳島大学)のDNA分析により、同じ型のイチョウの分布の概要がわかっていてイチョウの伝来や伝播についての記述はあるが、そうなった歴史的経緯については不明である。

2. 研究の目的

日本におけるイチョウ巨樹信仰の歴史を明らかにし、人々の営みによる、人と樹木の関係史を構築する。本研究ではイチョウに対する、中国や朝鮮半島にない日本独特の“乳信仰”に焦点をあてる。母親が母乳の出を祈願する風習を乳信仰と称する。樹齢の高いイチョウには、民俗語彙としてチチという部位が発生することがある。わずかだがスギやエノキなどにも幹に瘤がみられ、信仰の対象となったものがあるが、イチョウの場合とは比べ物にならない。母乳の不足する母親が樹皮を煎じて服用したり、たんに木に願をかけたりすると報告されているが、本研究では、民俗学的ではなく歴史学として、乳児の養育の個別化と深刻さが伺われるその信仰がいつごろからどのような社会的背景で始まり、広まっていったのかを問題とする。基礎資料として、歴史上のイチョウ巨樹の存在を明らかにする。なぜなら、集成されているデータは現存するものに限られているからである。また乳信仰という性質上、ジェンダーの視点を

示す。

3. 研究の方法

イチョウ巨樹の乳信仰の事例を現地に行って確認し、資料を収集する。地域の図書館で郷土資料の調査を行う。乳信仰がともなう可能性のあるイチョウは私見では全国で200か所以上あるが、確実性の高いものを優先する。『日本産育習俗資料集成』を参考にする。実地調査にあたってはイチョウの生物学的知見を有する研究協力者に同行してもらう。また、信仰は現在ではほとんど絶えていると推測されるが、現地住民への聞き取りを行う。

4. 研究成果

(1) 文献と実地調査によって、イチョウ巨樹の乳信仰のタイプが明らかになった。

イチョウ巨樹のチチを削って帰りに煎じて飲んだり粥に炊きこんで食べたりする。山寺跡(青森市宮田) 銀杏山長泉寺(久慈市門前) 吉祥院(鹿角市小豆沢) 糠田堂(中福寺、伊達市糠田) 天満天神小祠(白河市大信隈戸) 藤巻神社(会津美里町氷玉) 観音寺(矢板市長井) 浄蔵寺(太田市) 八幡神社(松伏町大川戸) 長照寺(和光市新倉坂下) 峯八幡宮(川口市大字峯) 小松神社(羽生市小松) 熊野神社(市原市金剛地) 西福寺(白井市谷田) 千葉寺(千葉市) 川尻観音(木更津市) 素戔鳴神社(荒川区南千住) 正覚院(足立区花畑) 影向寺(川崎市) 八幡東明寺廃寺(横浜市都筑区) 雲龍寺乳房観音堂(生坂村小立野) 観音堂・円通殿(大鹿村鹿塩) 金比羅社(長野市吉田) 西生寺(長岡市寺泊野積) 福道神社(長岡市寺泊) 栖吉神社(長岡市) 慈光寺(五泉市蛭野) 観音堂(五泉市切畑) 神明神社(豊田市時瀬町) 鞆江神社(一宮市) 国分寺(高山市) 上日寺(氷見市) 白山神社奥院薬師堂(勝山市野向町薬師神谷) 金山彦神社(敦賀市金山) 大生部兵主神社(豊岡市担東町薬王寺) 薬師如来堂(別府市大字内成) 耕地(九重町松木) 愛宕地藏尊(日田市天瀬町) 椎屋神社(宇佐市院内町) 妻垣神社(安心院町) 城跡(小国町下城)

木に向かって祈願する(木のチチをなでることもある) 根岸不動尊(おいらせ町) 八幡神社(十和田市大不動) 姥神社(青森市浪岡) 木作御飯屋代官所跡(つがる市) 空き地(階上町道仏) 空き地(七戸町銀南木) 高倉神社(鱒ヶ沢町日照田) 高台(一戸町出ル町) 畑地(花巻市東和町) 権現(藤里町藤琴) 銀杏神社(根本の小祠) 山裾(由利本荘市中俣) 真山寺(仙北市西木町) 砂川八幡神社(鶴岡市あさひむら) 霊輝院(庄内町三ヶ沢) 三社宮(河北町谷地内館) 大光寺(柴田町船岡) 熊野神社(登米市日根牛) 山中(柴田町雨乞) 糠田堂(中福寺、伊達市糠田) 武家屋敷跡(南会津町古町) 諏訪神社(沼田市井戸上町) 民家庭(都幾川町) 高山不動(飯能市) 善福寺(港区麻布) 海南神社(三浦市) 大泉寺(沼津市) 智満寺(島田市千葉) 神明神社(各務原市)

川島北山町) 子安観音堂(鯖江市上戸口町三峰) 諏訪神社(米原市上板並) 葛城一言主神社(御所市) 乳の木庵廃寺(朝来市和田山町) 光泉寺(古座町三尾川) 仁王堂(八頭町西御門) 街道脇(阿波市市場町大影) 寿命院乳薬師(三豊市詫間町) 岩部八幡神社(高松市) 垂乳根薬師(那珂川町大字五ヶ山) 熊野神社(日田市天瀬町女子畑) 瀬目八坂神社(五木村)

チチに祈願や名前を書いた紙か布を結わえる、廃寺跡(十和田市法量) 太田八幡宮(西和賀町沢内太田) 耕地(北秋田市前田五味堀) 五社堂(能代市二ツ井町) 永明寺(西伊豆町宇久須) 五所神社(吉野川市鴨島) 乳保神社(上板町瀬部) 銀杏山万福寺(神山町神領)

木がある寺で経をあげてもらい、祈願してもらった米を炊いて食べる。高照寺(勝浦市) 光泉寺(古座町三尾川)

木に乳房状の布製のものを下げる。廃寺跡(東通村大字目名) 権現(藤里町藤琴) 五社堂(能代市二ツ井町) 箱泉寺(石巻市箱清水) 野木神社(野木町) 青玉神社(多可町加美区) 茶畑(三好市上名)

木がある寺社に布製あるいは土製の乳房型のものを奉納して祈願する。諏訪神社(由利本荘市東由利) 雲龍寺乳房観音堂(生坂村小立野) 上日寺(氷見市) 八剣神社(水巻町)

チチから垂れる樹液を飲む(ただし、実際には樹液が垂れることはない) 廃寺跡(二戸市下斗米) 神明社(羽後町西馬音内)

竹筒に甘酒を入れ乳柱に供え祈願する。小泉不動尊(大崎市古川小泉) 道路脇(阿蘇市波野)

木の根元の水を飲む。安養寺古川薬師(大田区西六郷)

なお、祈願が叶ったときの返礼は、何らかのかたちで米を奉納するというものがあるが、とくにはない、という所も多い。しかし、樹皮の入手の時点で対価が支払われる例があった(集落の事情で場所は伏せる)。

木を傷つける樹皮利用は樹の保護の点から制限されるようになり、祈願のみに移行していった時間的経過が考えられる。

(2) 文献調査によって、現在の立地は神社であってもかつては寺院あるいは神宮寺であった可能性があることがわかった。廃寺跡の立地もあった。寺の場合、薬師信仰との結びつき(禅宗につながるか)や、密教系が多い。仏教とイチョウの関係は直接にはみつからない。墓地に植えられたのが後世に寺院の境内となった場合も想定される。寺院との関係がない場合は、巨木の信仰から神体とされ後世に神社に発展したことが推定される。いずれも植樹の段階では乳信仰はないのであるが、中国から伝来した希少な樹種であったことの意義から考えて、日本の樹木文化史上興味深い。巨樹になってからの信仰の伝播や継承には、正統な寺社の活動や僧侶、神官

の宗教活動はかかわらず、民間の宗教者が関与していたものと推測される。調査の範囲では、寺院においては仏への信心ではなくその木に対する信仰は、基本的には否定されている。本研究以前から、境内に乳信仰のあった木が存在している場合は、前記(1)にあるような形式ではなく広義の子安祈願として僧に読経してもらうようになっていることがわかってきたが、そういう例を追加確認できた。また、神社においては、巨木への関心がブームになっていることから、自社のイチョウには乳信仰がなかったにもかかわらず全国の例を参照して利用する態度が見られる場合があった。

これまでまったく注意されてこなかったが、中世、おそらく南北朝期の館、城の守護の意味で植えられたイチョウがあったことが推測できた。館や城の廃絶後、木だけが残されて現存するが、立地と木の推定樹齢とが矛盾しない。

(3) 乳信仰は母乳が出なくて育児に困った母親が乳の出を祈願するものと思われがちであるが、母乳が余るのでイチョウに「預ける」という行為がある。民俗学では母乳はどこにでも捨ててよいものではなくナンテンの木の下に捨てることが報告されているが、イチョウ巨樹の乳信仰にはそれがある。乳児の死亡率が高かった前近代において、余った母乳の処理を必要とすることは多かったはずである。その処理を誤ると次の子どもを育てるときに罰があたって母乳に恵まれない、ということがないようにする行為とみなされる。乳信仰の絵馬として奉納される「乳しぼり絵馬」はイチョウと直接の関連はないが、母乳を預けて次回に備える行為を表している。イチョウの乳信仰の一部にも乳を預けることが含まれていたことは、住民からの聞き取りでも確認できた。

(4) イチョウ巨樹は八幡神社、熊野神社、曹洞宗、真言宗といった寺社に多いことがいえるが、有意なことか偶然かについては不明である。中国からの伝来の理由が関連するのか、日本での伝播の理由が関連するのか。いずれにしろ乳信仰は植樹の時点から数百年経っているので、伝来の事情とは別である。乳信仰はどこで始まってもおおしくはないが、伝播にかかわった民間宗教者の存在が見えてきた。かつてその木のそばに祈禱師が住んでいたという証言や、修験者の活動の痕跡が残っているところがある。

(5) 過去から現在までの天然記念物調査報告や巨木・巨樹データ(環境省作成)『巨樹イチョウ総覧』『巨木イチョウ総覧』に載らなかつたり、現地で関心がもたれてこなかつたりした木をいくつか発見した。災害によって損傷を受けると文化財指定が解除されて記録が途絶えること、スギは注意されてもイチョウは注意を引かない傾向が関係している。乳信仰のある木は巨樹であるため、現在は信仰がなくなっているも巨樹として地域

活性化や観光に役立っているところもある。

(6) 現在は誰でも知っているイチヨウであるが、街路樹や大学構内の並木になっているのは明治以降の栽培による植樹であり、中国からの移入の時期や方法が問題となるが江戸時代以前はありふれた木ではなかった。民家には植えないものとされたことが民俗調査報告で知られているが、本研究の文献調査であらたに発見したこととして、江戸時代に西日本のいくつかの藩において禁伐とされた樹種に「銀杏」があった。それは山にイチヨウがあったことを意味するが、その事情は未詳であり、課題となる。九州での現地調査では、現代においてギンナンを得るために持ち山に数本植えることや、山に植えてあるイチヨウを探してその木を買い、木材(まな板)に利用したという経験談を聞いた。他の地方ではなかったことであるため、イチヨウの文化的な意味には地域的な違いがあるのかもしれない、その経緯には伝来と伝播の問題があるように考えられる。乳信仰は何らかの聖地と結びついた樹が対象であり、日常的な利用とは矛盾しない。

(7) 乳信仰のジェンダーについては、以下の点が考えられる。青森市浪岡の「源常林のイチヨウ」がある場所の姥神社の草創は文治年中に中野村の村中安全のために建立されたという伝承があるが、天保の飢饉のときから手入れがされず破壊されて無いとある(浪岡町史)。14世紀に源常館という城郭の遺構があり、玄上寺がここにあったことが江戸時代、天和の絵図にあり、イチヨウはそれらにかかわる植樹の可能性が大きい。菅江真澄の紀行文「すみかの山」(1791)には「絃上宇兵衛の塚に植えた大銀杏の木」となっている。中世の遺跡・事績が忘れられていくにつれ、残った巨木に伝説がつく。乳信仰では都の姫の世話をした姥の記念の木となる。寺社の境内という庇護のない木の乳信仰、すなわち女性の信仰を誘導したのは、民間の女性宗教者

であったと考えられる。江戸時代前半まではさかのぼらないのではないだろうか。イチヨウの乳信仰は乳児をもつ母親の切実な願いの現れであるが、社会的背景がある。家制度の下で、無事に子供を育てることへのプレッシャーの現れと考えられる。

本研究で実地調査に訪れたが、チチがあっても(乳銀杏という名称があっても)乳信仰について確認できなかった樹は以下である。

丹波市常瀧寺、福山市吉備津神社、米原市了徳寺、小浜市若狭姫神社、おおい町日枝神社、東北町新館八幡神社、千葉県市原市若宮(菊間八幡)神社、市原市飯香岡八幡神社、みなべ町丹河地蔵堂、九度山町北又の路傍、東松山市岩殿観音、直方市花の木堰、大分市円通寺、玖珠町平井天神、中津江村栃野の山林内

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

児島 恭子、イチヨウ巨樹の乳信仰、札幌学院大学人文学会紀要、第 103 号、2018、pp.73-85

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 2 件)

児島 恭子 他、日本北方圏域文化研究会、東北・北海道のイチヨウ、2016、55-61

児島 恭子 他、北海道大学出版会、「中尾佐助照葉樹林文化論」の展開、2016、422-439

〔その他〕

講演

児島 恭子、イチヨウ巨樹をめぐる歴史 2 イチヨウ巨樹の乳信仰、札幌学院大学コミュニティカレッジ、2016、11、1、札幌学院大学社会連携センター

児島 恭子、イチヨウ巨樹をめぐる歴史 1 巨樹伝説の変化、2016、10、25、札幌学院大学社会連携センター、

児島 恭子、巨木と人間の関係史 とくに伊予をめぐる、uhb 大学(北海道文化放送)講座、2016、5、27

6. 研究組織

(1)研究代表者

児島 恭子 (KOJIMA, Kyoko)

札幌学院大学・人文学部・教授

研究者番号：90709289

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

向出 弘正 (MUKAIDE, Hiromasa)